

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012

東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

電話：03(3578)3880

FAX：03(3578)3883

URL

<https://www.aba-j.or.jp>



第3回 クルマ・社会・パートナーシップ大賞
11月20日 応募締切

2023 **11** No.953

発行人 山岡 正博 編集人 田村 里志

「JAPAN MOBILITY SHOW 2023」開催

Japan Mobility Show 業界の枠を越えて 475 社が出展

111万2,000人にのぼる来場者を魅了



JMS 総裁の瑠子女王殿下(ステージ中央)のご臨席の下、オープニングセレモニーが行われ開幕

10

月26日（一般公開は10月28日から）～11月5日まで、東京ビッグサイト（東京・江東区有明）を中心に「JAPAN MOBILITY SHOW 2023（JMS＝ジャパンモビリティショー）」が開催され、多くの来場者で賑わいました。「乗りたい未来を、探しに行こう！」をテーマに、自動車業界の枠を超えて、他産業やスタートアップなど過去最多の475社が出展しました。また、コンセプトムービーの上映や有名アーティストの音楽ライブ、お笑いステージなども行われ、東京モーターショーをより進化させたショーとなりました。

初日の26日には、JMS総裁の瑠子女王殿下のご臨席の下、オープニングセレモニーが行われ、主催

者を代表して日本自動車工業会の豊田章男会長が挨拶し、「東京からジャパン、クルマからモビリティに大きく進化して開催する初めてのショー」と紹介。「日本の未来を担うスタートアップ企業約100社、過去最多となる約500社に出展いただき、この会場にはオールジャパンの技術を結集したモビリティの未来があります。JMSが多くの人々に夢と感動をお届けし、人が集まる場所になることを祈念します」と述べました。

この後、瑠子女王殿下による「オープニングスイッチオンセレモニー」が行われ、11日間で来場者が111万2,000人にのぼったイベントの幕が正式に開けられました。

◆◆ 主な内容 ◆◆

- 第1回経済・産業委員会開催 2
- 第1回道路・交通委員会開催 3
- 第109回全国自動車会議所専務理事会開催 4
- 自動車税制改革フォーラムが税負担軽減訴えるチラシを制作 5
- 第295回会員研修会開催 5
- 富山と愛知で「自動車なんでも無料相談」開催 6・7

（主な記事はホームページ＝<https://www.aba-j.or.jp>＝にも掲載しています）

「自動車産業を取り巻く動向と今後の自動車政策の展開について」と題し経産省自動車課の佐野総括課長補佐が講演



第1回経済・産業委員会開催

写真内は佐野総括課長補佐

日 本自動車会議所は10月3日、2023年度第1回経済・産業委員会（委員長＝小糸正樹・日本自動車販売協会連合会副会長・専務理事）を開催しました。在宅勤務等の多様な働き方にも配慮し、委員会はリアルとオンラインのハイブリッドで行われ、委員約30名が出席しました。委員会では経済産業省製造産業局自動車課の佐野正太郎総括課長補佐が、自動車市場の現状、国際的な政策動向、日本国内の政策動向と今後の政策展開などについて講演。さらに、自動車関連予算や税制改正要望のポイント等についても説明しました。その後、活発な質疑応答・意見交換が行われ、委員会は終了しました。

■「自動車産業を取り巻く動向と今後の自動車政策の展開について」

講師：製造産業局自動車課 佐野正太郎総括課長補佐

【講演要旨】

1. 自動車市場の現状

○世界のEVシフトは加速しています。一方で、車載用蓄電池について、足下では、資源価格の高騰を受け、コストが上昇しており、今後も鉱物資源の生産が追いつかず電池の供給が不足するおそれもあります。また、材料の精錬過程を特定国に依存（中国が過半数）していることがリスクになります。

○当面はEVと内燃機関（ICE）が併存しながら市場が広がっていく可能性が高く、引き続き国際競争力を維持していくためには、①EVにおける競争力強化と②ICEにおいて勝ち続ける取り組みを両にらみで進めていく必要があります。

○ICEにおいて勝ち続けるには、①事業の再構築等をして事業を強くする、②燃料の脱炭素化によるカーボンニュートラル（CN）実現、③非BEVの割合

が高い新興国の確保が必要になってきます。

2. 国際的な政策動向

○各地域での直近の動きとして、EUは中国BEV輸入急増に対し、補助金相殺関税措置調査の発動を宣言。フランスは生産時カーボンフットプリントに応じたZEV購入補助金を提示し、自国、自地域の囲い込みをしようとしています。

○世界の投資獲得競争の中での国内投資の促進については、欧米において、米国IRAはじめ投資囲い込みの動きが加速しています。中国でも中央政府・地方政府が電池工場の立地支援を力強く実施し、東南アジアで存在感が増しています。

○我が国においても、①他国に匹敵する国内投資の支援、②国際的な動向を踏まえた新たな国際貿易ルール作りの両面から取り組みを検討しています。

3. 日本国内の政策動向と今後の政策展開

○GXに向けたメニューについては、①電動車の購入支援（CEV補助金、商用車の差額支援）、充電インフラの整備、②水素活用では、FCトラックの社会実証、③合成燃料の商用化、④サプライヤー等の構造転換支援「ミカタプロジェクト」等があります。

○今年度の税制要望の一丁目一番地は“世界に伍して競争できる投資パッケージ”で、米国IRAのような仕組みを念頭に中長期的な経済成長に資する税制を考えており、生産活動に応じて、事業投資全体に対する支援を行うため、「戦略物資生産基盤税制の創設」を打ち出しています。

○自動車関係諸税の課税のあり方の方向性については、短中期で重要なポイントは、取得時負担の軽減により国内市場を活性化することと、保有課税全体の環境性能化で、ストック全体の環境性能を向上させることが重要と考えています。

来年度予算案・政策動向のポイントなど 国土交通省物流・自動車局と道路局の担当官が説明



第1回道路・交通委員会開催

写真円内は左から高橋企画官、依田道路事業調整官

日 本自動車会議所は10月11日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、2023年度第1回道路・交通委員会（委員長＝若林陽介・全日本トラック協会理事長）を開催し、国土交通省の担当官から2024年度予算案や政策動向などについて説明いただきました。委員会はリモートとの併用開催とし、委員26名が出席しました。委員会開催に当たり、8月より委員長に就任した若林新委員長の挨拶のあと、物流・自動車局総務課の高橋信博企画官と道路局企画課の依田秀則道路事業調整官がそれぞれ「令和6年度予算概算要求の概要」について、説明しました。

【講演要旨】

■物流・自動車局関係の予算案について

講師：物流・自動車局総務課 高橋信博 企画官

「物流2024年問題」によるドライバー不足の深刻化やカーボンニュートラルへの対応等を万全とするため、2023年10月に総合政策局物流部門と自動車局を統合した「物流・自動車局」を発足しました。これによりサプライチェーン全体の最適化やモーダルシフト、自動化・電動化などをより一層強力に推進できると考えています。

来年度の概算要求額については4つの主要施策を推進するため、一般会計として54億円、また自動車安全特別会計として675億円、財政投融资特別会計145億円の計874億円を要求し、加えて「物流2024年問題」の解決に向けた費用や「一般会計から自動車

安全特別会計への繰戻し」による歳入など事項要求として672億円を要求しています。

4つの主要施策については

- ①物流の2024年問題の解決等に向けた物流の革新
- ②脱炭素社会の実現に向けた自動車分野のGXの推進
- ③自動車分野のDXや技術開発、人材確保等による事業基盤強化等の推進
- ④自動車事故被害者救済、事故防止・安全対策の推進等——に取り組んでいきます。

今後の物流改革に向けては、9月28日に岸田総理と中小トラック事業者との車座対話を開催し、物流の効率化に向けた取り組みなどを経済対策として取りまとめる旨の発言がありました。これを受け10月6日の関係閣僚会議にて荷役作業の自動化・機械化、トラック運転手の労働負担の軽減などの物流の効率化や宅配の再配達率半減などの荷主・消費者の意識改革の推進、また、商慣行の見直しとして荷主・元請事業者の監視体制の強化や適正な運賃収受、賃上げ等に向け次期通常国会での法制化を推進する旨を盛り込んだ「物流革新緊急パッケージ」が取りまとめられました。

■道路局関係の予算案について

講師：道路局企画課 依田秀則 道路事業調整官

来年度の予算要求概要について、まず直轄事業費については1.9兆円で前年度比1.2倍となっています。次に補助事業については約1兆円強となっており、

地方自治体への補助として6,115億円、補助事業費全体として前年比1.2倍となっています。高速道路の新規建設、メンテナンス費用などの有料道路事業等の事業費については2.8兆円強となっており、道路事業全体で5.8兆円、前年比1.19倍となっています。

主要施策の取り組みについては各主要施策の基本方針として世界一安全（Safe）、スマート（Smart）、持続可能（Sustainable）な道路交通システムの構築に向け大きく6つの施策に取り組めます。

- ①防災・減災・国土強靱化：5カ年計画にある災害に強い道路ネットワークの構築や道路老朽化対策に引き続き取り組むとともに、危機管理体制の強化を推進
- ②予防保全型メンテナンスへの本格転換：ライフサイクルコストの削減や効率的かつ持続可能な維持管理が実現できる予防保全型メンテナンスに向けて定期点検により顕在化した必要な修繕と新技術

の活用を推進

- ③人流・物流を支えるネットワーク・拠点の整備：第三次国土形成計画に基づいた高規格道路等の整備や機能強化、交通拠点の整備、渋滞対策、物流支援等への取り組みを推進
 - ④GXの推進による脱炭素社会の実現：「道路におけるカーボンニュートラル推進戦略」を踏まえ、道路分野における脱炭素化の取り組みを推進
 - ⑤道路システムのDX化：道路の調査・工事・維持管理等や行政手続きの高度化・効率化を図るDXの取り組み「xROAD」を加速
 - ⑥道路空間の安全・安心や賑わいの創出：交通安全対策や地域の賑わい創出等に向けた、道路空間への多様なニーズに応える取り組みを推進
- それぞれの講演後、活発な意見交換が行われ、道路交通委員会は閉会しました。

第109回全国自動車会議所専務理事会

上期事業活動および主要課題について意見交換

「ジャパンモビリティショー2023」も視察

第 109回全国自動車会議所専務理事会が10月26日、27日の両日、東京都江東区の東京ベイ有明ワシントンホテルで開催されました。全国各地の自動車会議所から専務理事や理事長ら17団体22名が出席し、2団体2名がリモートで参加しました。

初日は冒頭、日本自動車会議所の山岡正博専務理事の挨拶に続いて、今年度新たに就任した大分県自動車会議所の三浦一也専務理事、愛媛県自動車会議所の松本真一専務理事、静岡県自動車会議所の武田真一常務理事の3氏が、初の出席者として紹介されました。

その後、当会議所から畠山太作常務理事などが組織運営、税制、交通安全、保険やクルマ好き拡大をはじめ2023年度上半期の各活動進捗状況を報告しました。また、第3回「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」（CSP大賞）についても、これまでの募集開始や募集促進の取り組み、関連記事の掲載状況などを詳しく説明しました。

その後、各会議所の課題について活発な意見交換が行われ、会議所間の情報共有が進みました。



2日目は、「ジャパンモビリティショー2023」を視察し、はじめに日本自動車会議所も協力している自動車整備人材確保・育成推進協議会のブースにおける子供たちへの整備士体験プログラムを見学しました。また、スタートアップ企業をはじめ、出展各社の展示ブースでは自動運転や空飛ぶクルマなど、未来のモビリティ社会を構築する目覚ましい技術発展を実感することができました。

なお、次回の全国専務理事会は来年2月に開催する予定です。

自動車税制改革フォーラム

ユーザーの税負担軽減を訴える活動チラシを制作

全国での街頭活動を4年ぶりに再開

当会議所や日本自動車連盟（JAF）など自動車関係21団体で構成する「自動車税制改革フォーラム」は、自動車ユーザーの税負担軽減を訴える街頭活動を4年ぶりに全国展開することに伴い、活動チラシを新たに制作しました。「みんなで考えよう！クルマの税金」をテーマに、改めて過重・複雑・不合理なクルマの税金の見直しを訴求するとともに、フォーラムのイメージキャラクター「カー太くん」も登場させ、より親近感を覚えるデザインとしました。4年ぶりに再開された街頭活動は、大勢の人が集まる駅前や商業施設、イベント会場などで今秋から全国で展開されています。

みんなで考えよう!
クルマの税金

自動車ユーザーの98.4%が
自動車にかかる税金に
負担を感じています

ご存じでしたか?
自動車の税金には・・・

- ① 自動車ユーザーは
9兆円もの税金を
負担しています。
- ② クルマを購入・所有すると
13年で180万円の税金を
負担することになります。
- ③ クルマの税金には不合理な
「当分の間税率」や「Tax on Tax」と
いった仕組みが続いています。

みんなの声を届けます。

クルマの税金
減らす
取りやすいところから
取らなさい!

子育てにも
クルマは必須です
家にはクルマが
数台あって
税金の高さに
おどろいています

◆ 私たちは自動車ユーザーの率直な声を政府等に届ける活動を行っています。
◆ 自動車ユーザーはクルマの税金に負担感や不合理さを抱えています。
◆ こうした声を結集して、私たちはクルマの税金の見直しを訴えています。

みなさまの率直な意見を
お聞かせください。

https://cam.jaf.or.jp/s/847836a/c?pid=7015

JAF(日本自動車連盟)
自動車税制改革フォーラム

JAF 税制 検索

日本自動車連盟(JAF) 日本自動車工業会 日本自動車販売協会連合会 全国軽自動車協会連合会 日本自動車部品工業会 日本自動車輸入組合 日本中古自動車販売協会連合会
日本トラック協会 日本自動車流通協会 全国商業用自動車協会 日本自動車整備協会連合会 日本自動車リース協会連合会 日本PA協会 全国流通協会 日本自動車修理工会
全国マイカーセンター協会 全国レンタカー協会 日本自動車タイヤ協会 日本二輪車連盟協会 自動車用品協会 全国自動車部品卸売協会 以上12団体 総代理

「カー太くん」も登場する活動チラシ



日本自動車会議所は10月30日、東京都港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第295回会員研修会を開催しました。リモートも併用し、全国自動車会議所など各地から計約50名に参加いただきました。今回は「自動車産業における脱成熟化：(ソフトウェア・デファインド・ビークル)で変容する価値構造」をテーマに、講師には次世代モビリティに詳しい法政大学准教授の糸久正人氏をお迎えしました。

講演では、日本の自動車産業の実情について「自動運転、電動化などCASE革命によって100年ぶり



糸久 正人氏

に脱成熟化の様相を呈しています」と説明。その上で、1908年にT型フォードというドミナントデザインで規定された自動車は「『テスラ』をはじめとしたSDV（通信技術を通じて各種機能がアップデートされるソフトウェアによって定義されたクルマ）の登場で脱成熟化の局面を迎えようとしています」として、新たなイノベーションの波が発生して関連ビジネスモデルも大きく変容すると強調しました。

自動運転やシェアリングが進展する中で「次世代モビリティのコア技術はソフトウェアであり、クルマの付加価値の大部分はソフトウェアが占めることが予想されます」と指摘。ただ、日本の完成車メーカーのSDVへの対応については「現状では（海外勢に）後塵を拝しています」との見方を示しました。

自身が委員を務める国土交通省「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」にも触れ、各地域の公共サービスとして実証実験が進んでいる自動運転バスの事例なども紹介いただきました。



会館交流会で親睦深める

日本自動車会館運営委員会

日本自動車会館入館14法人で組織する日本自動車会館運営委員会（委員長＝永塚誠一日本自動車工業会副会長・専務理事）は、10月10日、同会館「くるまプラザ」会議室（東京都港区）で第6回「日本自動車会館交流会」を開催し、162人が参加しました。

入館各法人から選出の実行委員が企画し、事前準備から当日の運営までを担当しました。

交流会では、クイズ大会や景品が当たる大抽選会を実施。クイズ大会では「ジャパンモビリティショー」や今年開催3回目を迎える「クルマ・社会・パートナーシップ大賞（CSP大賞）」など入館団体の相互理解につながる問題が出題され、テーブルごとのチームで相談・回答する形式で懇親を深めました。また、開催テーマに東北復興を掲げ、東北地方に関わりのある飲食物や景品を提供しました。

交流会開催は今回が6回目。コロナ禍の影響で、4年ぶりの開催となりましたが、会場はところ狭しと、にぎやかな会話と親睦の輪が広がり、来年の開催を期待する声も上がる中、大いに盛り上がり、交流会は終了しました。

「第38回自動車なんでも無料相談」開催

Toyama まるっとクルマフェスタ 2023

富山県自動車会議所

富山県自動車会議所は10月8日、富山運輸支局の構内において「第38回自動車なんでも無料相談」を行いました。令和元年（2019年）に台風の直撃で中止、その後、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見送ってから、実に5年ぶりの開催となりました。会議所会員で構成する富山県自動車関係団体主催で、支局、独法等が共催。今年から、イベント名を「Toyama まるっとクルマフェスタ」と銘打って、自動車に関する困りごとの解消や次世代自動車の普及、マイカー無料点検等、広く車に関心をもってもらうよう取り組みました。

県内のディーラー12社の協力のもと、輸入車を含む最新の次世代自動車（EV・FCV）12台が大集合！最新のEVバイクなど8台も展示しました。NASVAの衝突実験車両の展示や、着ぐるみの「ナスバちゃん」も登場し、自動車事故防止・被害者支援の啓発・広報にも務めました。

日本自動車会議所提供のクイックアームとクイックステップも列ができるほどの盛況ぶり。家族連れの来場者が目立ち、子どもたちにも車に大に関心を持っていただきました。5年ぶりの開催でしたが、



盛りだくさんの内容で、多くの来場者の皆さんに、車への関心を高めていただきました。

「とやま環境フェア2023」に出展

エコドライブの大切さをアピール！

富山県自動車会議所

富山県自動車会議所は10月14日、15日の両日、北陸信越運輸局と共同で、高岡テクノドームにおいて4年ぶりの大規模実開催となった「とやま環境フェア2023」に出展しました。「水と緑に恵まれた幸せ富山をめざして～私たちの未来 今、行動するとき～」と題して開催された今回の環境フェアは、当会議所も委員となっている同フェア開催委員会の主催で、県内外から62のグループ、団体が出展しました。



今年は、当会議所と北陸信越運輸局の共同出展となり、クイックアームとクイックステップで来場者を集め、自動車による環境への負荷の軽減や交通事故の減少に繋がる「エコドライブ」に関するアンケートを実施し、屋外では、ディーラー4社のご協力でもエコに繋がる次世代自動車の展示も行いました。

フェアに参加していた芸人やピエロも参加し、アームとステップを合わせ2日間で687人が体験するなど、楽しくにぎやかな取り組みとなりました。

「自動車なんでも無料相談所」を開設

愛知県自動車会議所

愛知県自動車会議所は10月22日、23日の2日間、名古屋市中区の金山総合駅コンコースにおいて、国や愛知県の後援を得て、今年度で16回目となる「自動車なんでも無料相談所」を開設しました。会場では愛知運輸支局等の行政機関や自動車関係16団体から派遣された相談員が42件の相談を受けました。相談内容はナンバープレート、運転免許証に関するものが上位を占めていました。

会場には、交通安全ミニイベントとして、敏捷性を測定する「クイックアーム」を設置したほか、日本自動車連盟愛知支部の「ドライブシミュレーター」や「ドライバー支援システム」の動画視聴コーナー、自動車事故対策機構のマスコットキャラクター「ナスバちゃん」とのふれあいブースを設け、いずれも好評でした。

また、全国版図柄入りナンバープレート、大阪・関西万博特別仕様ナンバープレート、豊田・春日井・岡崎の地方版図柄入りナンバープレートの見本

令和5年「秋の叙勲・褒章」

当会議所関係者多数が受章

令和5年秋の叙勲・褒章で、当会議所の会員団体・企業関係者多数が晴れの栄誉に輝かれました。

【叙勲】

◇旭日大綬章

- ・尾崎 裕氏：元日本ガス協会会長
- ・中川 雅治氏：東京都自動車会議所会長
元環境大臣

◇旭日重光章

- ・月岡 隆氏：元石油連盟会長
- ・早川 茂氏：トヨタ自動車(株)副会長

◇旭日中綬章

- ・三浦 廣巳氏：秋田県全自動車協会会長

◇旭日小綬章

- ・今井 高志氏：元青森県自動車団体連合会会長
- ・水野 功氏：元日本陸送協会会長

◇瑞宝重光章

- ・梶野 龍二氏：元全日本トラック協会理事長

◇瑞宝小綬章

- ・西脇 尚澄氏：自動車検査登録情報協会専務理事

◇瑞宝双光章

- ・池村 直樹氏：元石川県自動車会議所専務理事

【褒章】

◇藍綬褒章

- ・清水 隆史氏：TOYO TIRE社長兼CEO
日本ゴム工業会会長
元日本自動車タイヤ協会会長



を展示するとともに、全国の地方版図柄ナンバーを実寸サイズで掲載したタペストリーを展示しました。さらに、中部運輸局による特定小型原付（電動キックボード）のブースが設けられ、広報活動が行われました。

大門 ペソ 倶楽部

Vol. 73

「考えさせて」いますか？

(一社) 日本交通科学学会理事 吉村俊哉

欧州での運転教育、免許取得教育では「コーチング」という技法が多用されており、日本でも紹介されています。これは従来の「指導者が受講生に一方的に教える(ティーチング)」と対をなす手法で、指導者は受講生に「考えさせ、気づかせて向上へ導く」ことを手伝う、スポーツ等の「コーチ」の役割を担う方法です。その際求められるのは、受講生の考えや感想をよく聞き取り(傾聴)、さらなる向上への目標と評価について一緒に考えて試行し、それについてまた傾聴と積み上げを図る——これの繰り返しです。

かつて北欧で若者の事故低減を目指し、スキッド(クルマの横滑り)体験など特殊な運転教育を導入した際、若者が「運転が上手くなった」と勘違いしてかえって事故増加を招いた失敗がありました。そこから「単なるスキル(技能)の向上だけでなく心の育成も必要」という考え方に至りこの技法に行き着いた、とされています。

「受診者の発言を『傾聴』し、振り返りと気づきを促して行動の改善を図る」というやり方は「カウンセリング」にも似ていて、日本交通心理学会が現在、この両者を重視して会員に対する研修の機会を設けており、会員も自らの職域(自動車教習所や損保の関係者も数多い)で活用を試みています。

コーチングもカウンセリングも、共に「受け手が自ら振り返り、考え、気づく」ことがキモですが、それには指導側の「問いかけ方」がモノを言います。

例えば、具体的な選択肢をあらかじめ用意した問いかけをすると「はいorいいえ(○か×)」のような答えが返ってくるでしょう。これでも会話は成り立ちますが、しかしその先は続けにくい。そこで、敢えて「どのような？」といった(ある意味「漠然とした」)問いかけ方をすると、単純な選択ではなく「何かを考え表現する」ことが必要となります。そこから「傾聴に値する」手がかりも得やすくなります。

この2つの問いかけ方は、実は日常的に「意識せず」誰もが使っていて、そこに優劣や可否はありません。ただ「意識した使い分け」に相手の反応を変える可能性がある、ということです。皆さんも指導の場などで「使い分け」を心掛けると、より深化が期待できるかもしれません。

参考にしていただければ、幸甚です。



吉村氏の連載は今号で終了させていただきます。次号からは、交通毎日新聞社取締役の鈴木智氏に連載いただきます。鈴木氏は自動車メーカー、部品・用品、カーエレクトロニクスなど幅広い分野の取材経験を持たれています。

日本自動車会議所会員 (2023年11月15日現在)= 団体会員89、 順不同 =

- 一般社団法人 日本自動車工業会
- 一般社団法人 日本自動車部品工業会
- 一般社団法人 日本自動車車体工業会
- 一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
- 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
- いすゞ自動車販売店協会
- トヨタ自動車販売店協会
- 日産自動車販売協会
- U D トラックス販売協会
- 日野自動車販売店協会
- 三菱自動車販売協会
- 三菱ふそうトラック・バス販売協会
- 全国スバル自動車販売協会
- ダイハツ自動車販売協会
- 全国マツダ販売店協会
- スズキ自動車販売店協会
- ホンダ自動車販売店協会
- 一般社団法人 全国軽自動車協会連合会
- 日本自動車輸入組合
- 一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会
- 一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
- 一般社団法人 日本自動車機械工具協会
- 公益社団法人 全日本トラック協会

- 公益社団法人 全国通運連盟
- 公益社団法人 日本バス協会
- 一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
- 一般社団法人 全国自家用自動車協会
- 一般社団法人 日本損害保険協会
- 石油連盟
- 一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会
- 一般社団法人 全国自動車標板協議会
- 一般財団法人 自動車検査登録情報協会
- 一般社団法人 全国レンタカー協会
- 一般社団法人 日本自動車リース協会連合会
- 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
- 一般社団法人 自動車公正取引協議会
- 全国自動車検査登録印紙捌人協議会
- 一般財団法人 関東陸運振興センター
- 一般社団法人 東京都トラック協会
- 一般社団法人 神奈川県トラック協会
- 一般社団法人 日本道路建設業協会
- 一般社団法人 日本ゴム工業会
- 一般社団法人 日本塗料工業会
- 一般社団法人 板硝子協会
- 日本自動車車体整備協同組合連合会
- 一般社団法人 日本交通科学学会

- 一般社団法人 日本陸送協会
- 一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
- 一般財団法人 日本自動車研究所
- 一般社団法人 日本自動車機械器具工業会
- 特定非営利活動法人 ITS Japan
- 公益社団法人 自動車技術会
- 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
- 一般社団法人 日本ガス協会
- 一般社団法人 日本自動車運行管理協会
- 一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会
- 一般社団法人 自動車再資源化協力機構
- 一般社団法人 自動車用品小売業協会
- 一般社団法人 日本オートオークション協議会
- 日本中古車輸出業協同組合
- 全国オートバイ協同組合連合会
- 一般社団法人 日中投資促進機構
- 一般財団法人 日本自動車査定協会
- 一般財団法人 全日本交通安全協会
- 公益財団法人 日本自動車教育振興財団
- 一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会
- 全日本自動車部品卸商協同組合
- 一般社団法人 日本自動車購入協会
- 一般社団法人 青森県自動車団体連合会

- 一般社団法人 岩手県自動車会議所
- 一般社団法人 宮城県自動車会議所
- 一般財団法人 秋田県全自動車協会
- 山形県自動車団体連合会
- 一般財団法人 福島県自動車会議所
- 東京都自動車会議所
- 一般社団法人 神奈川県自動車会議所
- 一般社団法人 静岡県自動車会議所
- 一般社団法人 愛知県自動車会議所
- 一般社団法人 岐阜県自動車会議所
- 一般社団法人 三重県自動車会議所
- 一般社団法人 富山県自動車会議所
- 一般社団法人 石川県自動車会議所
- 一般社団法人 福井県自動車会議所
- 一般社団法人 大阪自動車会議所
- 一般社団法人 徳島県自動車会議所
- 一般社団法人 香川県自動車会議所
- 愛媛県自動車会議所
- 高知県自動車会議所
- 一般財団法人 大分県自動車会議所

(ほかに企業会員73、推薦会員1)